

薬用作物産地支援 栽培技術研修 東海・近畿会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

研修実施場所： 奈良県橿原文化会館 第1会議室（奈良県橿原市北八木町3-65-5）

実施時期： 10月12日(月)～13日(火)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月12日 (月)	13:15-13:30 (15分)	13:05現地集合 場所:五条駅前(JR西日本) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:30-15:10 (100分)	[講義・現地研修] 農水省委託プロジェクト 「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」 関連の実証圃場見学	標記プロジェクトのうち、「トウキを核とした複合経営モデルの開発」に関する実証圃場の見学とこれまでの取り組み成果を紹介する。	米田 健一	奈良県農業研究開発センター果樹・薬草研究センター 指導研究員
	15:10-16:10 (60分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:30-17:30 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	関根 豊	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班
10月13日 (火)	9:00-10:30 (90分)	[講義] 薬用作物の国内栽培技術について(仮題)	国内栽培の期待が高い薬用作物の栽培技術について解説する。(ミシマサイコ、シャクヤク、ジュウヤク、トウキ等)	酒井 英二	岐阜薬科大学 薬草園研究室 教授
	10:40-12:10 (90分)	[講義] 農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」の取り組み	トウキ、ミシマサイコ等の主要5品目について高品質な産品を低コストで安定的に栽培・収穫し、複合経営モデルを実証することを目的としたプロジェクト研究の目標やこれまでの成果について解説する。	川嶋 浩樹 米田 健一	農研機構西日本農業研究センター 畑作園芸研究領域 施設野菜生産グループ長 奈良県農業研究開発センター果樹・薬草研究センター 指導研究員
	12:10-13:10	昼 食			
	13:10-14:40 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	